DocuPrint C3540/C3140/C3250

HP-GL®、HP-GL/2® エミュレーション設定ガイド

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。

はじめに

このたびは富士ゼロックス製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本書では、HP-GL®、HP-GL/2® エミュレーションについて記載しています。
製品の性能を十分に発揮させ、効果的にご使用いただくために、必要に応じて本書をお読みください。
本書の内容は、ご使用になる環境の基本的な知識や操作方法、および DocuPrint C3540/C3140/C3250 の基本操作を習得されていることを前提に説明しています。

富士ゼロックスプリンティングシステムズ株式会社

目　次

マニュアル体系について

ここでは、本機のマニュアルの種類と、その概要を説明します。

本体同梱マニュアル

本機には次のマニュアルが同梱されています。

■セットアップガイド

本機の設置方法について説明しています。

■取扱説明書

本機で印刷するまでの準備、操作方法、およびトラブルの対処方法などについて説明しています。

■マニュアル（HTML）

プリンタードライバーのインストール、プリンターの環境設定などを説明しています。

- 本体に同梱されているドライバー CD キットの CD-ROM 内に格納されています。

■エミュレーション設定ガイド（PDF）

201H、HP-GL®、HP-GL/2®、PCL の各エミュレーションモードの設定方法について説明しています。

- 201H、HP-GL、HP-GL/2、PCL の各エミュレーションモードは、エミュレーションキット（オプション）または PostScript® ソフトウエアキット（オプション）を取り付けると使用できます。
- 各エミュレーション設定ガイドは、本体に同梱されているドライバー CD キットの CD-ROM 内に格納されています。

オプション品同梱マニュアル

■オプション品の設置手順書・取扱説明書

別売りのオプション品には、必要に応じて設置手順書または取扱説明書が同梱されています。

■ PostScript® Driver Library CD-ROM 内のマニュアル（PDF）

PostScript プリンターとして使用するための設定方法やプリンタードライバーで設定できる項目について説明しています。

- PostScript ソフトウエアキットに同梱されている CD-ROM 内に格納されています。

商品マニュアル

必要に応じて購入していただくマニュアルもあります（リファレンスマニュアル（ART IV対応）など）。
これらのマニュアルでは、プリンター（プロッター）制御言語のコマンドやソフトウエアのインストール手順などを説明しています。

本書の読み方

前提知識

本書の内容は、お使いの OS（オペレーティングシステム）の環境の基本的な知識や操作方法を理解されていることを前提に説明しています。お使いの OS の基本的な知識や操作方法については、OS に付属の説明書をお読みください。

本書の構成

本書は、以下の構成になっています。

第 1 章　エミュレーションを使用するには

使用できるインターフェイスや、使用できるフォント、エミュレートするプリンター、工場出荷時の設定での動作などについて説明しています。

第 2 章　HP-GL、HP-GL/2 モードの設定

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションを使用するための、プリンターでの設定について説明しています。

第 3 章　HP-GL、HP-GL/2 モード関連資料

ハードクリップエリア、各用紙サイズでの印字可能桁数、オートレイアウトについてなどを説明しています。

本書の表記

① 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。

② 本文中では、説明する内容によって、次のアイコンを使用しています。

注記 注意すべき事項を記述しています。必ずお読みください。

補足 補足事項を記述しています。

参照 参照先を記述しています。

③ 本文中では、次の記号を使用しています。

参照「　」：参照先は、本書内です。

参照『　』：参照先は、本書内ではなく、ほかの説明書です。

「　」：フォルダー、ファイル、アプリケーション、CD-ROM などの名称を表します。

[　]：クライアント上のメニュー、コマンド、ウィンドウやダイアログボックスとそれらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表します。

〈　〉キー：キーボード上のキーを表しています。

〈　〉ボタン：操作パネル上のボタンを表しています。

【　】：操作パネルのディスプレイに表示されるメッセージ、メニューの選択肢や設定値を表します。

エミュレーションを使用するには

1章

1.1 エミュレーションについて

DocuPrint C3540/C3140/C3250で使用できるプリント言語のHP-GL、HP-GL/2エミュレーションについて説明します。
プリントデータは、ある規則（文法）に従ったデータになっています。DocuPrint C3540/C3140/C3250では、この規則（文法）をプリント言語といいます。
DocuPrint C3540/C3140/C3250が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、ほかのプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。なお、ほかのプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

1.1.1 エミュレーションモード

DocuPrint C3540/C3140/C3250が対応するページ記述言語以外のデータを印刷するときは、DocuPrint C3540/C3140/C3250 をエミュレーションモードにします。
DocuPrint C3540/C3140/C3250には、複数のエミュレーションモードがあります。その中のHP-GL、HP-GL/2エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
HP-GLエミュレーションモード（HP-GLモード）	7586B または DJ750C Plus
HP-GL/2エミュレーションモード（HP-GL/2モード）	DJ750C Plus

HP-GLモードの場合は、送られてくるデータによって、HP-GL、HP-GL/2、HP-RTLを切り替えます。
HP-GL/2モードの場合は、HP-GL/2およびHP-RTL固定となります。

1.1.2 ホストインターフェイスとエミュレーション

ホストインターフェイスごとに、対応するプリント言語は異なります。プリント言語に対応しているホストインターフェイスは、次のとおりです。

- パラレルポート
- LPDポート
- NetWareポート
- SMBポート
- IPPポート
- USB-1（1.1）ポート
- USB-2（2.0）ポート
- Port9100ポート

1.1.3　プリント言語の切り替え

DocuPrint C3540/C3140/C3250 は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。
対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。DocuPrint C3540/C3140/C3250 は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

自動切り替え

ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

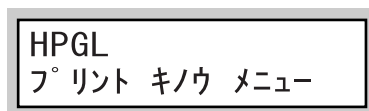
インターフェイス従属

操作パネルを使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

1.1.4　モードメニュー画面

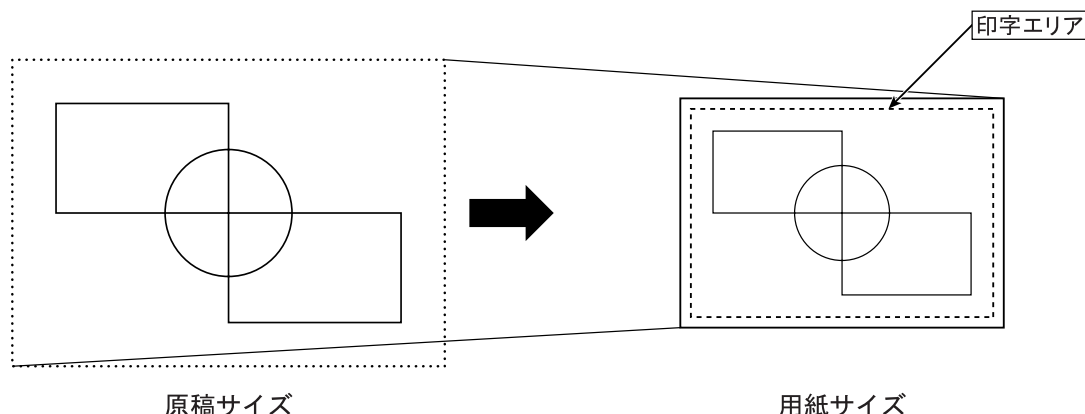
エミュレーションの HP-GL、HP-GL/2 モード固有の項目を設定する画面です。HP-GL、HP-GL/2 のモードメニュー画面を表示するには、〈メニュー〉ボタンを押し、「プリント言語の設定」で【HPGL】を選択してください。

```
HPGL
ﾌﾟﾘﾝﾄ ｷﾉｳ ﾒﾆｭｰ
```

参照

HP-GL、HP-GL/2 のモードメニュー項目については、「第 2 章　HP-GL、HP-GL/2 モードの設定」を参照してください。

1.2 工場出荷時の設定

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードの工場出荷時の設定では、以下のように印刷を行うことができます。工場出荷時の設定は、用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大し印刷（オートレイアウト）するように設定されています。

原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：する

補足
必要に応じて工場出荷時の設定を変更してください。設定変更については、「第 2 章 HP-GL、HP-GL/2 モードの設定」を参照してください。

1.2.1 ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズが【A サイズ】に設定されています。少しでも印刷データが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさの A 系列サイズに（例：A4 サイズの次は A3）印刷されます。ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ペーパーマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。希望の用紙サイズより大きいサイズに印刷されるような場合は、本設定を行ってください。0 ～ 99㎜ の範囲で設定します。初期値は 0㎜ です。

参照
設定方法については、「第 2 章　HP-GL、HP-GL/2 モードの設定」を参照してください。

1.3 フォントについて

ここでは、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードで使用できるフォントについて説明します。

1.3.1 使用できるフォント

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションでは、以下のフォントを使用できます。

ストロークフォント

- 欧文＋カタカナストロークフォント
- 日本語ストロークフォント

アウトラインフォント

搭載されているアウトラインフォントは、次のとおりです。

和文

- 平成明朝体 TMW3
- 平成角ゴシック体 TMW5

1.3.2 ユーザー定義文字（外字）

DocuPrint C3540/C3140/C3250 では、ユーザー定義文字（外字）を使用できます。ユーザー定義文字は、メモリーにしか格納できません。このため、電源を切ると消去されます。ただし、内蔵増設ハードディスク装置を装着すると、ユーザー定義文字はハードディスクに格納されるため、電源を切っても保持されます。内蔵増設ハードディスク装置に登録できるユーザー定義文字の容量は、メモリー格納時と同じ容量です。
ユーザー定義文字を格納するメモリーの容量は、ほかのユーザー定義データの容量と合わせた値を、操作パネルから設定できます。この値は、電源を切っても保持されます。
ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録されます。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有されません。

1.3.3　フォントキャッシュ

高速印刷を実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、ある期間、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。
保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、システムリセットをしたりすると、消えます。

1.4 排出機能について

排出機能について説明します。排出機能には、次の 2 種類があります。

- **残ったデータを強制排出する場合.................................... (1.4.1 参照)**
- **プリンター内のすべてのジョブを排出する場合.......................... (1.4.2 参照)**

1.4.1 残ったデータを強制排出する場合

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモードでは、1 ページ分のデータがすべてそろうまでデータは排出されません。パラレルインターフェイス、USB-1（1.1）インターフェイス、USB-2（2.0）インターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちになり、ディスプレイには【データマチデス】が表示されます。
強制排出は、このようなときに自動排出時間を待たないで、プリンター内のデータを強制的に印刷する操作です。
操作手順は次のとおりです。

補足

ディスプレイに【データマチデス】が表示されているとき、次のジョブを送信すると正常に印刷されない場合があります。
次のジョブは、強制排出後、または自動排出時間が経過してから送信してください。

参照

自動排出時間については、『DocuPrint C3540/C3140/C3250 取扱説明書』を参照してください。

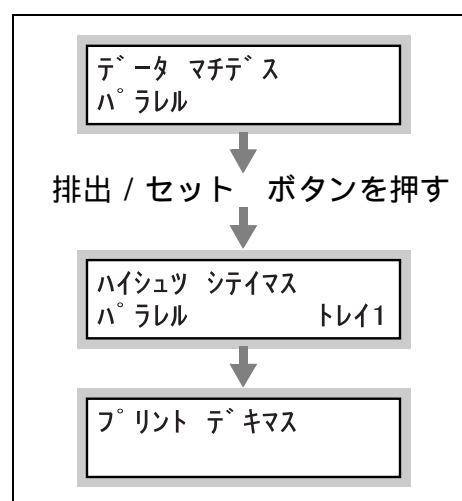
操作手順

1 **右記のディスプレイ状態で〈排出 / セット〉ボタンを押します。**

印刷が開始されます。

印刷が終了すると、【プリントデキマス】の表示になります。

注記

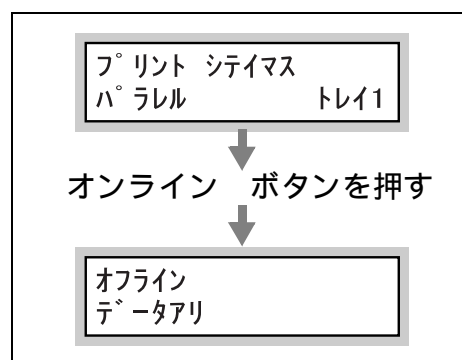
共通メニュー項目の「プリントモード指定」が【ジドウ】の場合、【データマチデス】と表示されないため、強制排出できません。

1.4.2 プリンター内のすべてのジョブを排出する場合

**プリンターに受信されているすべてのジョブを実行して印刷します。
この操作によって、データの受信を中断し、バッファを空の状態にできます。次に手順を説明します。**

参照
プリンター内のすべてのジョブを消去する方法もあります。消去する方法については、『DocuPrint C3540/C3140/C3250 取扱説明書』を参照してください。

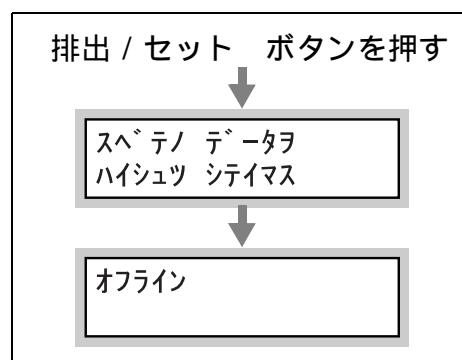
操作手順

1 右記のディスプレイ状態で〈オンライン〉ボタンを押します。

補足
〈オンライン〉ボタンを押すと、プリンターは自動的にデータを受信できない状態となります。

2 〈排出 / セット〉ボタンを押します。

印刷が開始されます。

すべてのジョブを実行して印刷すると、【オフライン】の表示になります。

補足
パラレルインターフェイス、USB-1（1.1）インターフェイス、USB-2（2.0）インターフェイスを使用している場合、手順 ***1*** の〈オンライン〉ボタンを押すタイミングによって、データ受信がジョブの途中になることがあります。
この場合、それ以降のデータは〈排出 / セット〉ボタンを押したあと、新しいジョブとして認識され、手順 ***3*** のオフライン解除後、新しいジョブとして処理されます。

3 〈オンライン〉ボタンを押します。

【プリントデキマス】の表示になります。

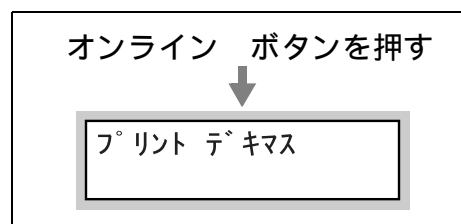
補足

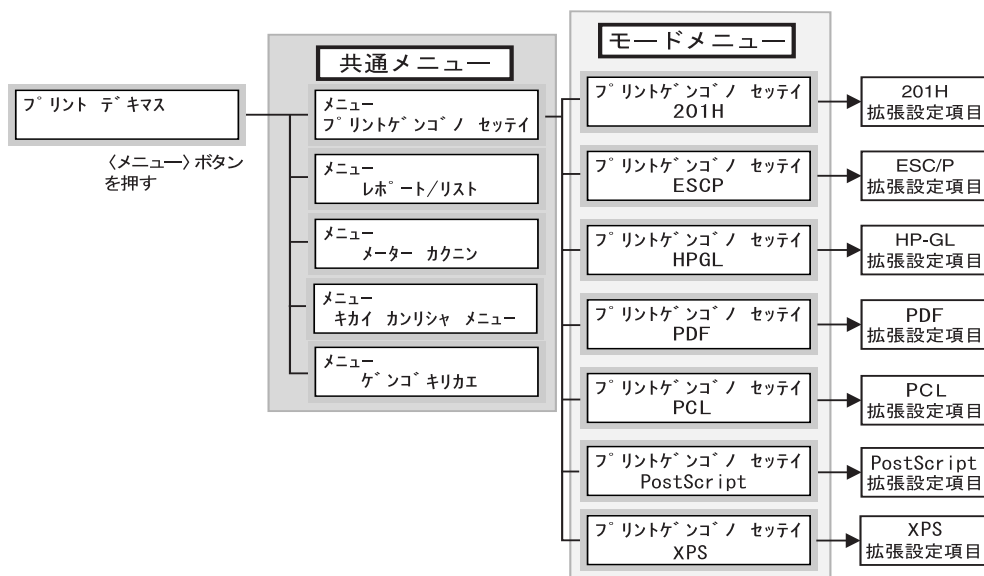
【プリントデキマス】表示後、新しいジョブとして処理されるデータは、共通メニューの「プリントモード指定」で【ジドウ】が設定されているとき、正常に印刷されない場合があります。

HP-GL、HP-GL/2 モードの設定

2章

2.1 モードメニューについて

メニューの種類およびエミュレーションモードメニューの階層について説明します。

2.1.1 DocuPrint C3540/C3140/C3250 のメニュー

メニューには、エミュレーション関連を設定する「モードメニュー」とプリンターのその他の設定を行う「共通メニュー」があります。

PostScript ソフトウエアキット、またはエミュレーションキットを装着すると、「共通メニュー」で以下の項目が設定できます。

- **ポートの起動（パラレル /LPD/NetWare/SMB/IPP/USB-1/USB-2/Port9100）**
  HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL エミュレーションを使用するポートを起動します。
- **プリントモードの指定（パラレル /LPD/NetWare/SMB/IPP/USB-1/USB-2/Port9100（初期値：【ジドウ】））**
  ポートのプリントモード指定を、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして【HP-GL/2】や、【HexDump】を指定できます。
- **HP-GL オートレイアウトメモリー**
  オートレイアウト実行時、プリントデータを格納するメモリーの容量を設定できます。

参照

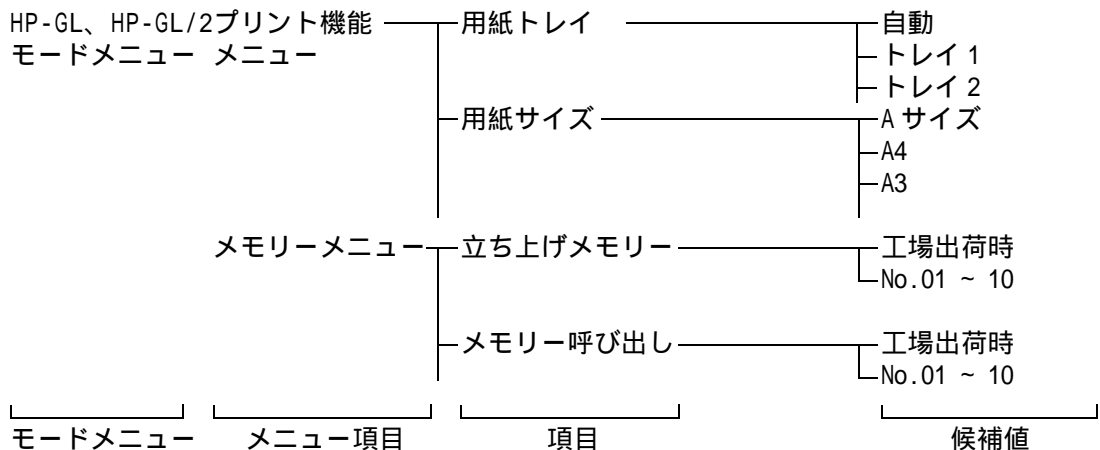
共通メニューの設定項目については、『DocuPrint C3540/C3140/C3250 取扱説明書』を参照してください。

2.1.2 モードメニューについて

HP-GL、HP-GL/2 モードメニューは、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションの固有な設定をするためのメニューです。
モードメニューの設定内容を印刷中に変更できます。この場合、変更された設定は、次のジョブから反映されます。
モードメニューは、次のような階層で構成されています。

- **モードメニュー > メニュー項目 > 項目 > 候補値**

補足

項目のないメニュー項目もあります。
項目は「項目 1」「項目 2」「項目 3」に分けられる場合があります。
（以降、「項目」と呼びます。）

上記の図は、HP-GL、HP-GL/2 モードメニューの階層の一部を表したものです。

参照

モードメニューで設定できる項目および操作は、「2.2　HP-GL、HP-GL/2 モードメニューの設定」を参照してください。

2.2 HP-GL、HP-GL/2 モードメニューの設定

HP-GL、HP-GL/2 モードメニューで設定できる項目と、その操作方法について説明します。

2.2.1 HP-GL、HP-GL/2 設定項目一覧

HP-GL、HP-GL/2 モードメニューで設定できる項目について説明します。

プリント機能メニュー

用紙トレイ

印刷に使用する用紙トレイを設定します。
候補値は次のとおりです。
【ジドウ】（初期値）
「用紙サイズ」で設定した用紙がセットされている用紙トレイを探し出し、そこから自動給紙します。
【トレイ 1】
【トレイ 2】
【トレイ 3】
【トレイ 4】
【トレイ 5（テザシ）】

注記

- 【トレイ 1】～【トレイ 4】を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。
- 【トレイ 2】～【トレイ 4】は、トレイ 2 ～ 4 を装着している場合に表示されます。

補足

- 【ジドウ】を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ 1→トレイ 2（オプション）→トレイ 3（オプション）→トレイ 4（オプション）の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、横にセットされている用紙が優先されます。
- トレイ 2、3、4 はオプションです。

用紙サイズ

印刷する用紙のサイズを設定します。「用紙トレイ」の設定が【ジドウ】、または【トレイ 5（テザシ）】の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙だけです。
候補値は次のとおりです。

■「用紙トレイ」が【ジドウ】のとき

【A サイズ】（初期値）【A4】【A3】【A5】【B4】【B5】【ジドウ】

補足

- 「原稿サイズ」を【ジドウ】以外に設定すると、【ジドウ】、【A サイズ】は選択できません。
- 「用紙トレイ」を【トレイ 5（テザシ）】に設定すると、【ジドウ】、【A サイズ】は選択できません。

■「用紙トレイ」が【トレイ 5（テザシ）】のとき

【A4】（初期値）【A3】【A5】【B4】【B5】

■「用紙トレイ」が【トレイ 1】～【トレイ 4】のとき

設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。【ヨウシ　サイズ】は設定できません。

補足

セットされている用紙サイズが不明なときは、【**】と表示されます。

原稿サイズ

クライアントで作成された原稿のサイズを設定します。
候補値は次のとおりです。
【ジドウ】（初期値）
【ヨウシ】
「用紙サイズ」で指定したサイズと同じサイズになります。
【A0】【A1】【A2】【A3】【A4】【A5】【B0】【B1】【B2】【B3】【B4】【B5】
「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。

補足

- 【ジドウ】以外を選択すると、「オートレイアウト」の設定は、【シナイ】に変更されます。
- 【ジドウ】、または A 系列の用紙サイズを選択すると、「用紙サイズ」の設定は、【シナイ】に変更されます。
- 【ジドウ】以外を選択すると、「スケールモード」の設定は、【ヨウシサイズ】に変更されます。

座標回転

印刷するときの用紙方向を設定します。
候補値は次のとおりです。
【0°】（初期値）
用紙方向を横長に設定します。
【90°】
用紙方向を縦長に設定します。

カラーモード

カラーモードを設定します。
候補値は次のとおりです。
【カラー】（初期値）
【シロクロ】
【クロペン】

オートレイアウト

オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。
候補値は次のとおりです。
【スル】(初期値)
【シナイ】

補足

- 【スル】は、「原稿サイズ」で【ジドウ】が選択されている場合にだけ表示されます。
- 【シナイ】を選択すると、「スケールモード」の設定は、【ヨウシサイズ】に変更されます。

パレット優先指定

使用するパレットを設定します。
候補値は次のとおりです。
【コマンド】(初期値)
【メモリートウロク セッテイ】

プリント部数

■部数の入力

印刷する部数を設定します。
設定できる範囲は、1(初期値)〜 250 部です。

注記

クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されて印刷されます。印刷後、操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、NetWare、LPD ポートから指定された部数は、印刷後、操作パネルの設定を書き換えることはありません。

■部数の優先指定

印刷する部数の指定方法を設定します。
候補値は次のとおりです。
【プロトコル】(初期値)
【パネル】
【コマンド】

両面

両面印刷を設定します。
候補値は次のとおりです。
【シナイ】(初期値)
両面印刷を行いません。
【サユウビラキ】
左右開きになるように印刷します。
【ジョウゲビラキ】
上下開きになるように印刷します。

補足

【サユウビラキ】と【ジョウゲビラキ】は、両面ユニット装着機の場合に設定できます。

排出先

印刷した用紙の排出先トレイを設定します。
【センタートレイ】（初期値）
【サイドトレイ】
【ハイシュツトレイ】
【フィニッシャートレイ】

補足

- 【サイドトレイ】は、オプションのサイドトレイが装着されている場合に設定できます。
- 【ハイシュツトレイ】、【フィニッシャートレイ】は、オプションのフィニッシャーが装着されている場合に設定できます。

ホチキス

フィニッシャーに排出された文書をホチキス留めするかどうかを設定します。ホチキス留めをする場合は、ホチキスの位置を設定します。
【シナイ】（初期値）
【ヒダリウエ 1カショ】【ミギウエ 1カショ】【ヒダリシタ 1カショ】
【ミギシタ 1カショ】【ウエ 2カショ】【シタ 2カショ】【ヒダリ 2カショ】
【ミギ 2カショ】

補足

- この項目は、オプションのフィニッシャーが装着されている場合に設定できます。

「排出先」で【センタートレイ】、【サイドトレイ】が選択されている状態でホチキス留めをするように設定すると、「排出先」が【フィニッシャートレイ】に変更されます。

パンチ

用紙にパンチ穴をあける場所を設定します。
パンチ穴は、排出される用紙の向きに対してあけられます。そのため、画像の向きによっては、正しい位置にパンチ穴があけられないことがあります。
【シナイ】（初期値）
パンチ処理を行いません。
【ヒダリ (2 ケツ)】
左 2 か所にパンチ穴をあけます。
【ウエ (2 ケツ)】
上 2 か所にパンチ穴をあけます。
【ミギ (2 ケツ)】
右 2 か所にパンチ穴をあけます。
【ヒダリ (3 ケツ)】
左 3 か所にパンチ穴をあけます。
【ウエ (3 ケツ)】
上 3 か所にパンチ穴をあけます。
【ミギ (3 ケツ)】
下 3 か所にパンチ穴をあけます。

補足

この項目は、オプションのフィニッシャーが装着されている場合に設定できます。
ただし、あけることができるパンチ穴は 2 穴のみです。3 穴の設定は使用できません。

手差し確認待ち

トレイ 5（手差しトレイ）から給紙する印刷指示をしたあと、本体側の操作（〈排出 / セット〉ボタンを押す）によって印刷を開始します。初期値は【シナイ】です。

フォント

■漢字書体
2 バイト系文字（漢字）の書体を、【ストローク】（初期値）、【ミンチョウ】、【ゴシック】の中から設定します。なお、2 バイト系半角文字もこの書体が適用されます。

■英数字書体
1 バイト系文字（ANK）の書体を、【ストローク】（初期値）、【ローマン】、【サンセリフ】の中から設定します。

参照

フォントについては「1.3　フォントについて」を参照してください。

位置補正

ハードクリップエリアを移動させる機能です。縦横ともに -250 ～ 250mm まで 1mm 単位で設定できます。

■上下方向
-250 ～ 250mm の範囲で、1mm 刻みに設定できます。初期値は【0mm】です。

■左右方向
-250 ～ 250mm の範囲で、1mm 刻みに設定できます。初期値は【0mm】です。

補足

- 印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。
- 位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。
- 〈▼〉または〈▲〉ボタンで候補値を変更するときに、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、〈▼〉ボタンと〈▲〉ボタンを同時に押すと、初期値が表示されます。

印字制御

■HP-GL モード
グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GL コマンドの IW、OW、UC コマンドに影響します。
候補値は次のとおりです。
【HP-GL】（初期値）
HP-GL、HP-GL/2、HP-RTL を使用できます。送られてくる印刷データによって自動で各言語を切り替えます。
【HP-GL/2】
HP-GL/2、HP-RTL を使用できます。

■ハードクリップ
ハードクリップエリアの大きさを設定します。
HP-GL モードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。
候補値は次のとおりです。
【ヨウシ】（初期値）
用紙と同じサイズをハードクリップエリアとします。ただし、実際に印字できる範囲は、プリンターの印字可能エリアと同じです。
【ヒョウジュン】
A4、A3、レター、レジャーのハードクリップエリアは、HP 7586B、HP DJ750C Plus と同じです。ほかの用紙サイズのハードクリップエリアは、本プリンターの印字可能エリアと同じです。

■排出コマンド

描画の終了を示すコマンド（SP、SP0、NR、FR、PG、AF、AH）を設定します。ここで指定したコマンドを受信すると、描画を終了し、用紙が排出されます。工場出荷時は、SP0 以外のコマンドは【ムコウ】に設定されています。

補足

複数のコマンドが指定された場合は、どれか 1 つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。

■スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大 / 縮小（スケーリング）するかを設定します。
【スル】（初期値）
スケーリングします。
【シナイ】
スケーリングしません。プリントデータは、等倍（100%）で印刷されます。この場合、用紙サイズ内にプリントデータが入りきらないことがあります。

■スケールモード

オートスケール実行時の原稿サイズを、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）とするか、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。候補値は次のとおりです。
【ヨウシサイズ】（初期値）
原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）の中から自動的に選択されます。
【ザヒョウエリア】
原稿サイズは、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアから、ペーパーマージンを差し引いたエリアとします。

補足

- 「原稿サイズ」で【ジドウ】以外が選択されている場合、【ザヒョウエリア】は選択できません。
- 【ザヒョウエリア】は、「オートレイアウト」が【スル】の場合だけ設定できます。【シナイ】の場合は、【ヨウシサイズ】になります。

■エリア判定モード

オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。
候補値は次のとおりです。
【ジドウ】（初期値）
有効座標エリア判定方法を、IW、IP、Adapted、PS の中から自動的に選択します。このときの優先順位は、IW ＞ IP ＞ Adapted ＞ PS となります。
【IW】
データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。
【IP】
データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。
【Adapted】
以下の条件から有効座標エリアを決定します。

- 描画を行うコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

【PS】
データ中の最初の PS コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

■ペーパーマージン

オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。
0 ～ 99mm の範囲で、1mm 刻みに設定できます。初期値は【0mm】です。

補足

〈▼〉または〈▲〉ボタンで候補値を変更するときに、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、〈▼〉ボタンと〈▲〉ボタンを同時に押すと、初期値が表示されます。

■イメージエンハンス

イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。
イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。候補値は次のとおりです。
【スル】（初期値）
【シナイ】

注記

スケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が【ジドウ】の場合に有効となります。

■エミュレーション対象

エミュレートするプリンターを設定します。
候補値は次のとおりです。
【HP750C】（初期値）
HP750C をエミュレートします。
【FX4036】
FX4036 をエミュレートします。

ペン属性

16 本のペン（【No.00】～【No.15】）の属性を設定します。
作図する線の太さや色を設定できます。

■幅

ペンの幅（太さ）を設定します。ペンの幅は、0.0 ～ 25.0mm の範囲で、0.1mm 刻みに設定できます。初期値は【0.3mm】です。

補足

- 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小 0.1mm まで縮小します。
- 線の幅は線の中心から太くなります。
- 太さが 0.0mm の場合は、何も描画されません。
- 〈▼〉または〈▲〉ボタンで候補値を変更するときに、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、〈▼〉ボタンと〈▲〉ボタンを同時に押すと、初期値が表示されます。

■先端

ペンの先端を設定します。
【セツダン】（初期値）
•：座標指定位置
【マルメ】
•：座標指定位置
【クケイ】
•：座標指定位置

■連結

ペンの線を接続した場合の処理を設定します。

補足

- 【ナシ】は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。
- シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定する HP-GL コマンドです。

■カラー

ペンの濃度を設定します。0 ～ 255% の範囲で 1% 単位で設定します。No.00 ～ No.15 それぞれの初期値は、0、1、2、3、4、5、6、7、8、12、19、27、35、68、100、110 となります。数値が小さくなるほど濃度が薄くなります。

補足

- ペン属性と文字書体の関係は次のとおりです。

書体 / ペン属性	ストローク	明朝、ゴシック、ローマン、サンセリフ
ペン幅	有効	無効
先端処理	有効	無効
連結処理	無効	
カラー	有効	

- 〈▼〉または〈▲〉ボタンで候補値を変更するときに、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、〈▼〉ボタンと〈▲〉ボタンを同時に押すと、初期値が表示されます。

メモリーメニュー

NV メモリー（No.01 ～ 20）に設定内容を登録し、必要に応じて呼び出すことができます。

立ち上げメモリー

立ち上げメモリーとは、あらかじめ「メモリー登録」で登録しておいた NV メモリー（No.01 ～ 20）を電源投入時やシステムリセット時などに読み出すことです。
ここでは、読み出す NV メモリーの No. を設定します。
初期値は【コウジョウ シュッカジ】で、工場出荷時の設定内容を読み出して立ち上げます。

メモリー呼び出し

あらかじめ登録されている設定内容を呼び出す機能です。
呼び出すメモリーの No. を設定します。
初期値は【コウジョウ シュッカジ】で、工場出荷時の設定内容を呼び出します。

メモリー登録

メモリーには、工場出荷時の設定内容を記憶している ROM と、ユーザーが設定内容を保存することができる NV メモリー（No.01 ～ No.20）があります。
メモリー登録では、NV メモリー（No.01 ～ No.20）にあらかじめ設定したモードメニューの各種設定内容をひとまとめにして登録します。
登録しておくと、モードメニューの設定内容を簡単に呼び出したり、電源投入時に、毎回同じ設定を繰り返す必要がなくなります。
登録した設定内容は、NV メモリーの初期化、またはメモリー削除を行うまで保持されます。

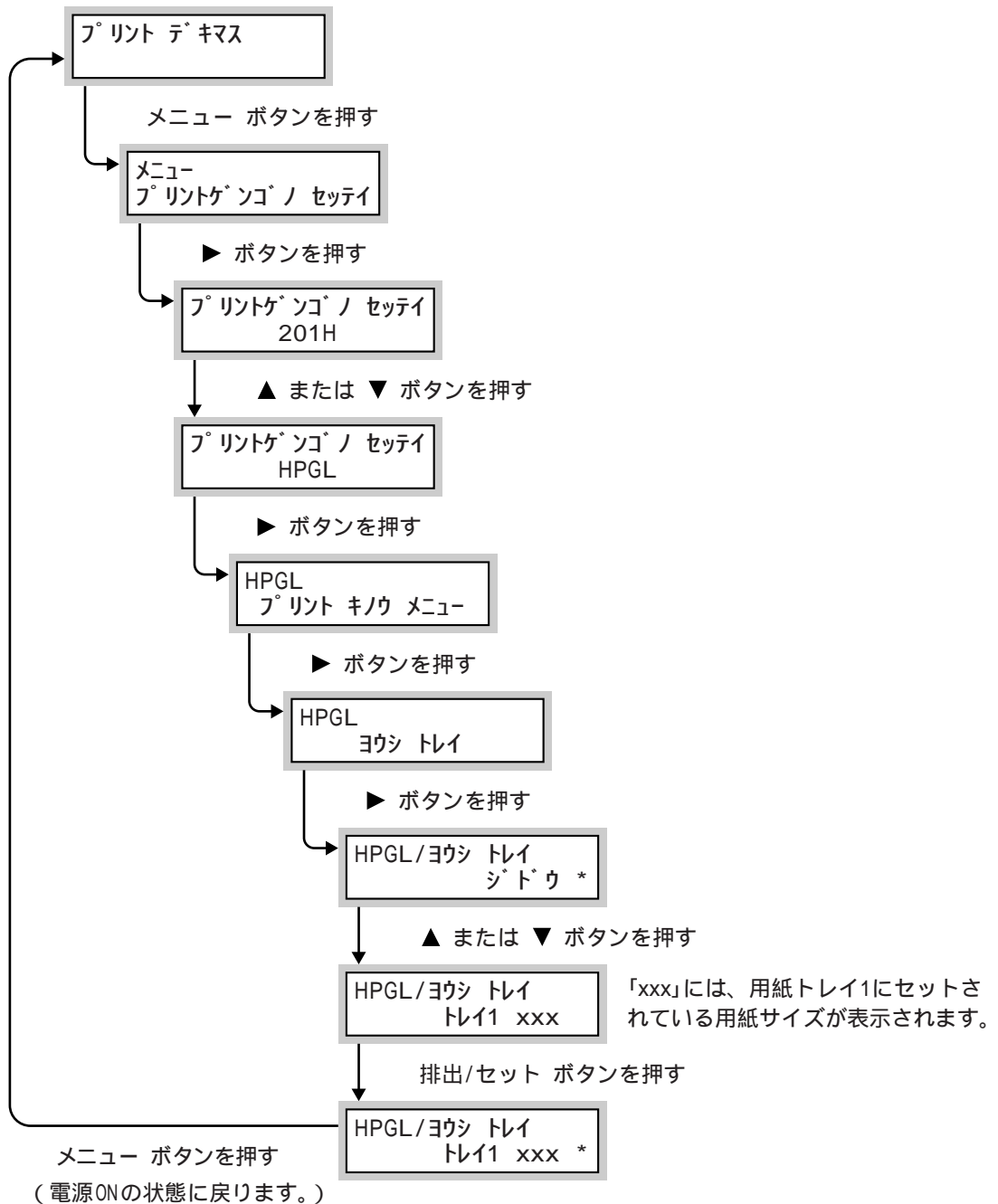
メモリー削除

NV メモリーに登録した設定内容を削除します。
ここでは、削除するメモリーの No. を設定します。

補足

- メモリーに設定内容が登録されていない場合、【No.01】～【No.20】は表示されません。
- 登録中、クライアントからのコマンドによって設定値が異なってしまうことがあるため、登録は〈オンライン〉ボタンを押してオフライン状態に移行してから行うことをお勧めします。

2.2.2 HP-GL、HP-GL/2 モードメニューの設定方法

モードメニューの設定方法について、HP-GL、HP-GL/2 モードの用紙トレイを【トレイ 1】に設定する場合を例に説明します。

2.3 HP-GL、HP-GL/2 モードのリストについて

HP-GL、HP-GL/2 モードのリストについて説明します。

補足

- リストの印刷結果は、DocuPrint C3540（両面機能付き）を例に記載しています。
- ほかのレポート / リストについては、『DocuPrint C3540/C3140/C3250 取扱説明書』を参照してください。

2.3.1 HP-GL、HP-GL/2 モードのリスト

- **HP-GL/2 設定リスト**
  HP-GL モードでの設定値を確認できます。

DocuPrint C3540
HP-GL/2® 設定リスト

日時 : 2005/02/05 05:41 AM

書式設定

原稿サイズ	自動
用紙サイズ	A系列サイズ
用紙トレイ	自動
オートレイアウト	する
座標回転	0°
パレットの優先指定	コマンド
位置補正	
上下方向	しない
左右方向	しない
カラーモード	カラー

フォント

漢字書体	ストローク
英数字書体	ストローク

オプション設定

排出先	センタートレイ
両面	しない

印字制御

トレイ5(手差し)の給紙確認待ち	しない
HP-GLモード	HP-GL
イメージエンハンス	する
排出コマンド	
SP	無効
SP0	有効
NR	無効
FR	無効
PG	無効
AF	無効
AH	無効
プリント部数の優先指定	プロトコル
プリント部数	1部
スケール	する
スケールモード	用紙サイズ
エリア判定モード	自動
ペーパーマージン	0mm
ハードクリップ	用紙
エミュレーションの対象機	HP750C

ペン属性

No.	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー
0	0.3	切断	なし	0
1	0.3	切断	なし	1
2	0.3	切断	なし	2
3	0.3	切断	なし	3
4	0.3	切断	なし	4
5	0.3	切断	なし	5
6	0.3	切断	なし	6
7	0.3	切断	なし	7
8	0.3	切断	なし	8
9	0.3	切断	なし	12
10	0.3	切断	なし	19
11	0.3	切断	なし	27
12	0.3	切断	なし	35
13	0.3	切断	なし	68
14	0.3	切断	なし	100
15	0.3	切断	なし	110

メモリー登録一覧

工場出荷時の設定		*
No. 1	未登録	
No. 2	未登録	
No. 3	未登録	
No. 4	未登録	
No. 5	未登録	
No. 6	未登録	
No. 7	未登録	
No. 8	未登録	
No. 9	未登録	
No. 10	未登録	
No. 11	未登録	
No. 12	未登録	
No. 13	未登録	
No. 14	未登録	
No. 15	未登録	
No. 16	未登録	
No. 17	未登録	
No. 18	未登録	
No. 19	未登録	
No. 20	未登録	

- **HP-GL/2 論理プリンター･メモリー登録リスト**
  NV メモリーに登録されている設定値を確認できます。

DocuPrint C3540
HP-GL/2® 論理プリンター･メモリー登録リスト

日時：2005/02/05 05:41 AM
ページ：1

登録番号	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5
書式設定					
原稿サイズ	自動	自動	自動	自動	自動
用紙サイズ	A系列サイズ	A系列サイズ	A系列サイズ	A系列サイズ	A系列サイズ
用紙トレイ	自動	自動	自動	自動	自動
オートレイアウト	する	する	する	する	する
座標回転	0°	0°	0°	0°	0°
パレットの優先指定	コマンド	コマンド	コマンド	コマンド	コマンド
位置補正（上下方向）	しない	しない	しない	しない	しない
位置補正（左右方向）	しない	しない	しない	しない	しない
カラーモード	カラー	カラー	カラー	カラー	カラー
フォント					
漢字書体	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク
英数字書体	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク
オプション設定					
両面	しない	しない	しない	しない	しない
排出先	センター・トレイ	センター・トレイ	センター・トレイ	センター・トレイ	センター・トレイ
印字制御					
トレイ5（手差し）の給紙確認待ち	しない	しない	しない	しない	しない
HP-GLモード	HP-GL	HP-GL	HP-GL	HP-GL	HP-GL
イメージエンハンス	する	する	する	する	する
排出コマンド	SP0	SP0	SP0	SP0	SP0
プリント部数の優先指定	プロトコル	プロトコル	プロトコル	プロトコル	プロトコル
プリント部数	1部	1部	1部	1部	1部
スケール	する	する	する	する	する
スケールモード	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ
エリア判定モード	自動	自動	自動	自動	自動
ペーパーマージン	0mm	0mm	0mm	0mm	0mm
ハードクリップ	用紙	用紙	用紙	用紙	用紙
エミュレーションの対象機	HP750C	HP750C	HP750C	HP750C	HP750C

ペン属性	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅(mm)	先端形状	連結形状	カラー
No. 0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0
No. 1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1
No. 2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2
No. 3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3
No. 4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4
No. 5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5
No. 6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6
No. 7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7
No. 8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8
No. 9	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12
No. 10	0.3	切断	なし	19	0.3	切断	なし	19	0.3	切断	なし	19	0.3	切断	なし	19	0.3	切断	なし	19
No. 11	0.3	切断	なし	27	0.3	切断	なし	27	0.3	切断	なし	27	0.3	切断	なし	27	0.3	切断	なし	27
No. 12	0.3	切断	なし	35	0.3	切断	なし	35	0.3	切断	なし	35	0.3	切断	なし	35	0.3	切断	なし	35
No. 13	0.3	切断	なし	68	0.3	切断	なし	68	0.3	切断	なし	68	0.3	切断	なし	68	0.3	切断	なし	68
No. 14	0.3	切断	なし	100	0.3	切断	なし	100	0.3	切断	なし	100	0.3	切断	なし	100	0.3	切断	なし	100
No. 15	0.3	切断	なし	110	0.3	切断	なし	110	0.3	切断	なし	110	0.3	切断	なし	110	0.3	切断	なし	110

- **HP-GL/2 パレットリスト**
  カラー・パレットの設定値を確認できます。

DocuPrint C3540
HP-GL/2® パレットリスト

日時：2005/02/05 05:41 AM

0	1	2	3	4	5	6	7	基本色
255,255,255	0,0,0	255,0,0	0,255,0	255,255,0	0,0,255	255,0,255	0,255,255	

8	9	10	11	12	13	14	15	グレー階調
233,233,233	204,204,204	178,178,178	153,153,153	127,127,127	102,102,102	77,77,77	26,26,26	

操作パネルの指示番号 2
255,0,0 RGB値（0〜255）

標準の設定																
ペンNo.	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
指示番号	0	1	2	3	4	5	6	7	8	12	19	27	35	68	100	110

2.3.2 プリント方法

- **HP-GL/2 設定リスト**
操作パネルで【レポート / リスト】＞【プリントゲンゴ】＞【HP-GL/2 セッテイ リスト】を選択し、印刷します。
- **HP-GL/2 論理プリンター･メモリー登録リスト**
操作パネルで【レポート / リスト】＞【プリントゲンゴ】＞【HP-GL/2 トウロク リスト】を選択し、印刷します。
- **HP-GL/2 パレットリスト**
操作パネルで【レポート / リスト】＞【プリントゲンゴ】＞【HP-GL/2 パレット リスト】を選択し、印刷します。

参照

レポート / リストの印刷方法については、『DocuPrint C3540/C3140/C3250 取扱説明書』を参照してください。

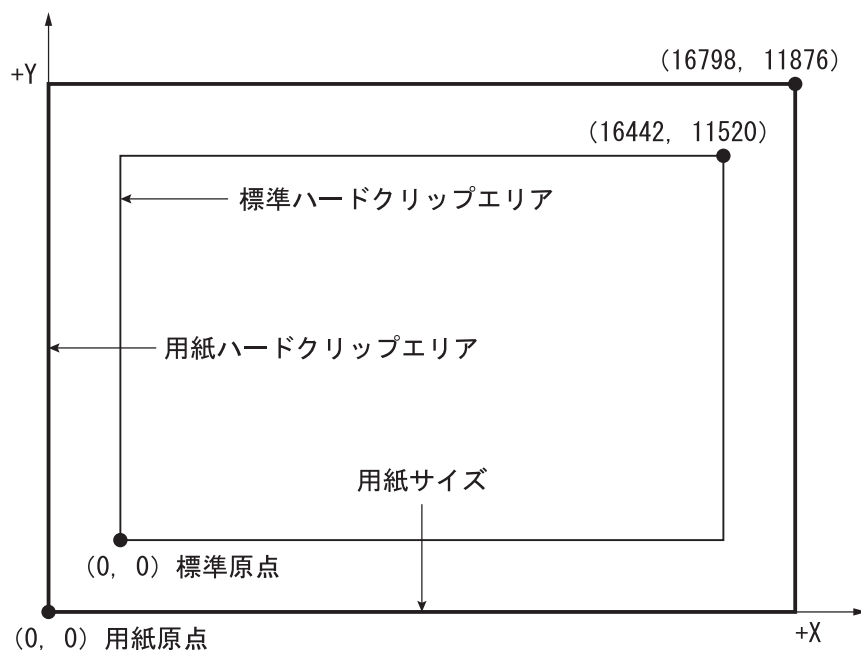
3章

HP-GL、HP-GL/2 モード関連資料

3.1 ハードクリップエリア

HP-GL、HP-GL/2 モードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選択します。

- 標準
  本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。
- 用紙
  用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内だけになります。

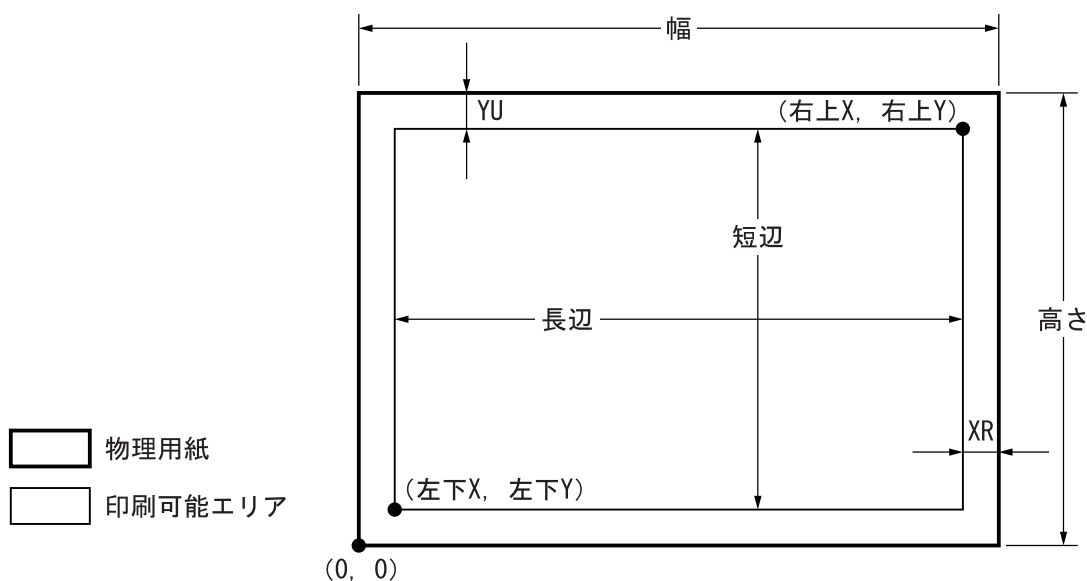
ハードクリップエリアの設定は、HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションモード設定 またはハードクリップの指定コマンド &I で行うことができます。
下図の座標値は、A3 サイズで原点が左下（HP-GL/2 でオートレイアウト時）に設定されている場合です。

3.2 印字可能エリア

HP-GL、HP-GL/2 モードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

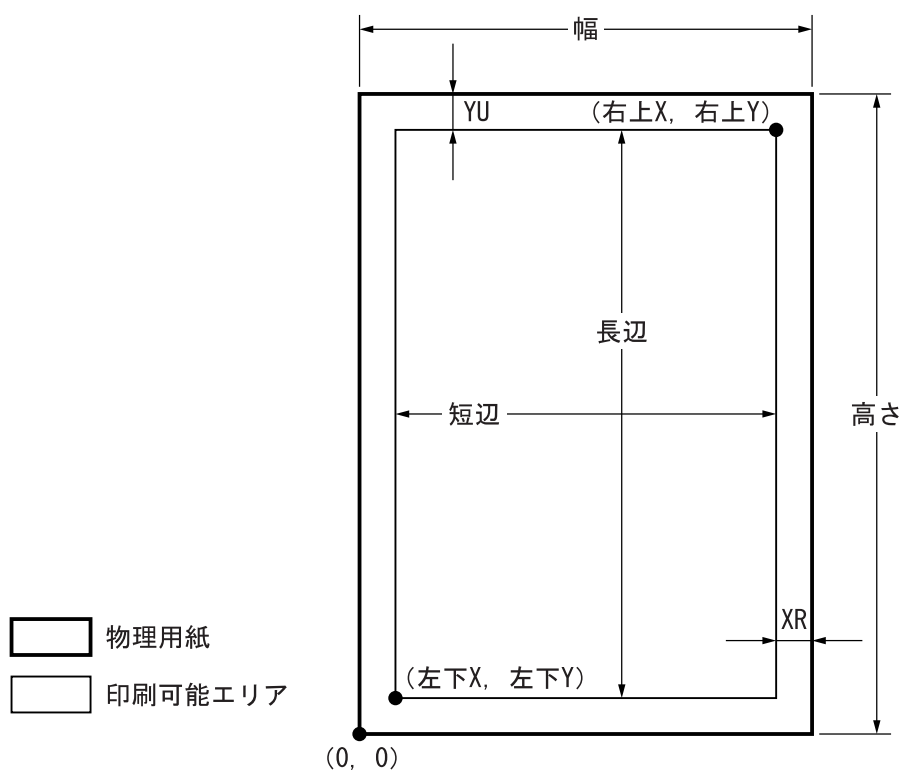
用紙サイズと印刷可能エリア

用紙サイズ	用紙長(1/7200 インチ)		座標値(1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。

用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X 方向	Y 方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下 X	左下 Y	長辺	短辺	右上 X	右上 Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

HP-GL、HP-GL/2 エミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5 の 5 種類です。

3.3 オートレイアウト

ここでは、オートレイアウトについて説明します。

3.3.1 オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力されたHP-GL、HP-GL/2データをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GL、HP-GL/2モードで印刷できます。
オートレイアウトの指定はすべてプリンターの操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

3.3.2 オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、プリンターの操作パネルを使ってモードメニューの次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを【ジドウ】に設定します。初期値は、【ジドウ】です。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを【スル】に設定します。初期値は、【シナイ】です。
- スケールを【スル】に設定します。初期値は、【スル】です。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。初期値は、【ジドウ】です。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。初期値は、【0㎜】です。
- スケールモードを設定します。初期値は、【ヨウシサイズ】です。

3.3.3 設定項目の詳細

各項目の詳細は、次のとおりです。

原稿サイズ

原稿サイズで【ジドウ】を選択すると、オートレイアウトの設定を【スル】にできるようになります。

オートレイアウト

オートレイアウトの設定を【スル】に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小（スケーリング）するかどうかを設定します。

エリア判定モード

HP-GL、HP-GL/2 データをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

【ジドウ】

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adapted の中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS>IW>IP>Adapted となります。

【IW】

データ中の最後の IW コマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中に IW コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

【IP】

データ中のすべての IP コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に IP コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

【Adapted】

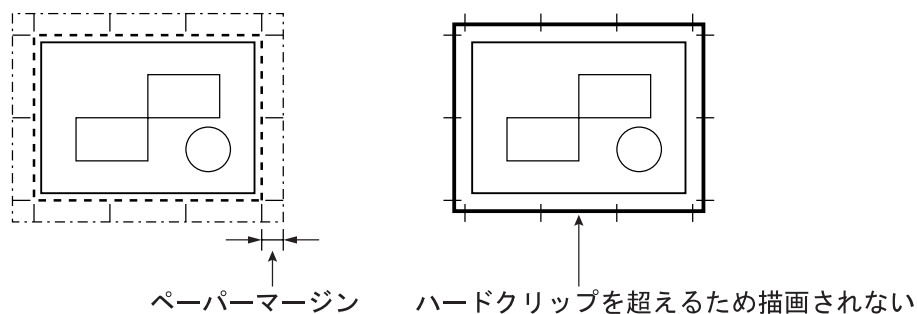
以下の条件から有効座標エリアを決定します。

- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

【PS】

データ中の最初に PS コマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中に PS コマンドがない場合は、Adapted で有効座標エリアを決定します。

ペーパーマージン

0 ～ 99㎜ の範囲で設定します。初期値は 0㎜ です。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ペーパーマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。

エリア判定モードで求めたエリア
エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選択します。また、有効座標エリアから横置きまたは縦置きの判断もします。

【ザヒョウエリア】の場合
エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

【ヨウシサイズ】の場合
求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A 系列の用紙サイズ（A0、A1、A2、A3、A4、A5 の 6 種類）から選択されます。

3.3.4　原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

スケールモードが【ヨウシサイズ】の場合

決定方法

1. エリア判定モードに従い、入力された HP-GL、HP-GL/2 データから有効となる座標エリアを求めます。
2. *1* で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のどちらか値の大きいほうをマージンとして加えます。
3. *2* で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。
4. *3* で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

スケールモードが【ザヒョウエリア】の場合

決定方法

1. エリア判定モードに従い、入力された HP-GL、HP-GL/2 データから有効となる座標エリアを求めます。
2. *1* で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさ、またはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の 1/2 のどちらか値の大きいほうをマージンとして加えます。
3. *2* で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。
4. *3* までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

例：

スケールモード = 用紙サイズ、原点位置 = オート、ペーパーマージン 10㎜、エリア判定モード =IP の場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて 0.1㎜

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在しないで、IP,IW で指定しているエリアは A3 物理サイズ

```
IN;
IP-8399,-5938,8399,5938;
IW-8399,-5938,8399,5938;
PU;
SP1;
:
:
SP0;
```

決定方法

1 エリア判定モードが IP のため IP コマンドで指定されたエリア

-8399,-5938,8399,5938 を有効座標エリアとします。

2 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて 0.1㎜ のため A3 サイズのデフォルト文字サイズの高さ /2（75 プロッタユニット）のサイズを *1* で求めた有効座標エリアに加えます。

2 で求めた有効座標エリア　-8474,-6013,8474,6013

3 ペーパーマージンで設定されている値（10㎜=400 プロッタユニット）を *2* で求めた有効座標エリアから差し引きます。

3 で求めた有効座標エリア　-8074,-5613,8074,5613

4 *3*で求めた有効座標エリアはA4サイズを超えA3サイズのため、原稿サイズは A3 と判断されます。

また、ペーパーマージンの設定が 0㎜ だった場合の有効座標エリアは -8474,-6013,8474,6013 なので、A3 サイズを超え A2 サイズ以下のため、原稿サイズは A2 と判断されます。

3.3.5 用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は以下のようになります。
原稿サイズ ： ジドウ
用紙トレイ ： ジドウ
用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

用紙サイズの設定が、【A サイズ】の場合

A3,A4,A5 の 3 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。
A 系列（A3,A4,A5）の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3,A4,A5 すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A 系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

用紙サイズの設定が、【ジドウ】の場合

A3,B4,A4,B5,A5 の 5 種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。
A3,B4,A4,B5,A5 の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

スケールモードの設定が、【ヨウシサイズ】の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選択します。
原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。
原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

スケールモードの設定が、【ザヒョウエリア】の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選択します。
有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。
有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

補足

- 操作パネルの「原稿サイズ」が【ジドウ】以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの用紙サイズで設定されている用紙サイズとなります。
- 操作パネルの「用紙トレイ」が【ジドウ】に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

3.3.6 倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を【スル】にします。【シナイ】の場合は、等倍（100%）で描画されます。

原稿サイズが【ジドウ】、スケールモードが【ヨウシサイズ】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- **原稿サイズ = 用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。**
- **原稿サイズ＞用紙サイズの場合は、縮小して描画します。**
- **原稿サイズ＜用紙サイズの場合は、等倍（100%）で描画します。**

用紙／原稿	A3	A4	A5	B4	B5
A0	35	25	100	31	100
A1	50	35	25	43	31
A2	71	50	35	61	43
A3	100	71	50	87	61
A4	100	100	71	100	87
A5	100	100	100	100	100

補足

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

原稿サイズが【ジドウ】、スケールモードが【ザヒョウエリア】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。
倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位：プロッターユニット

用紙サイズ	0 度				90 度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x-P1x	P2y-P1y	P2x-P1x	P2y-P1y	P2x-P1x	P2y-P1y	P2x-P1x	P2y-P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの 210.0%、倍率の最小値は、22.5% となります。

3.3.7　オートレイアウト描画時の制限事項

プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されている場合

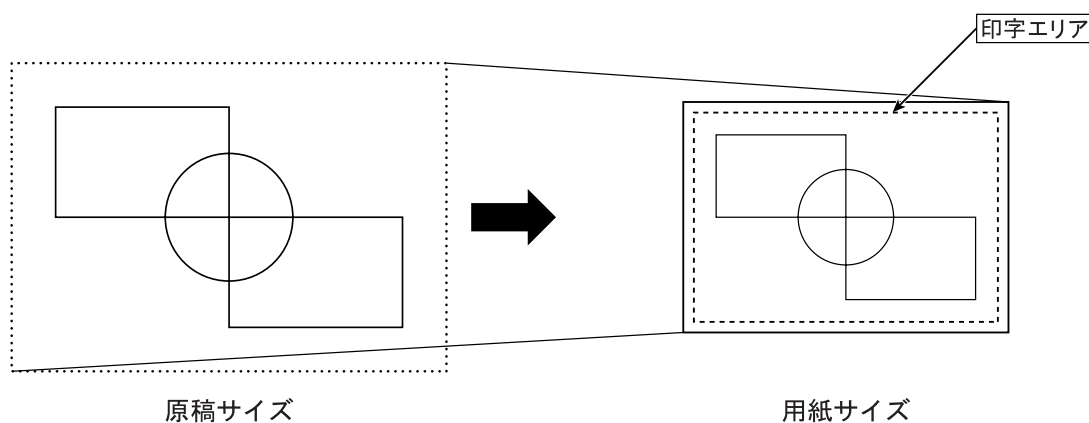
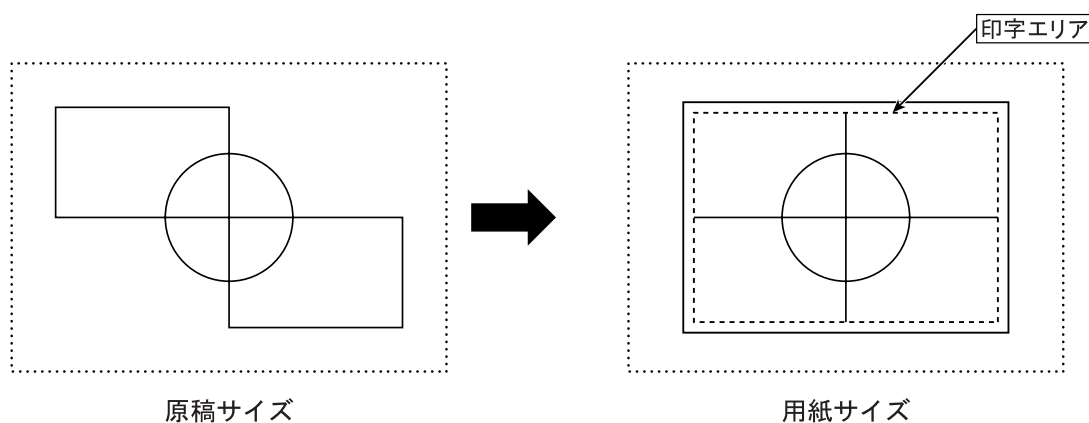
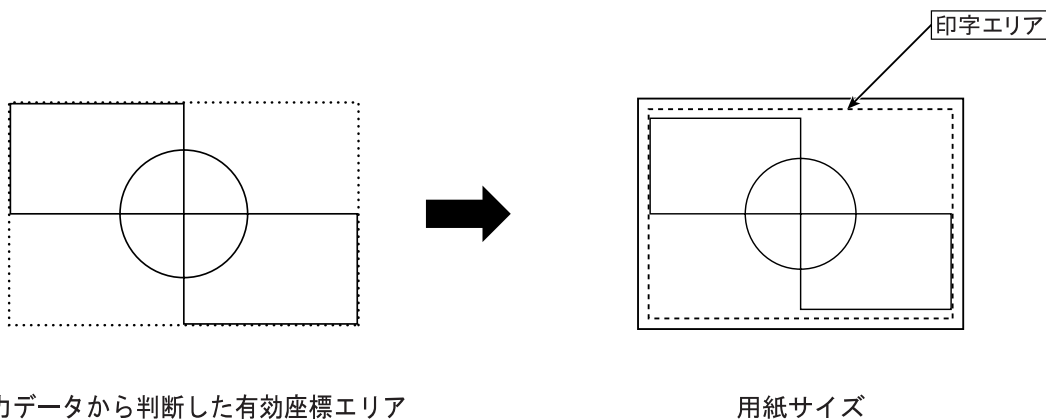
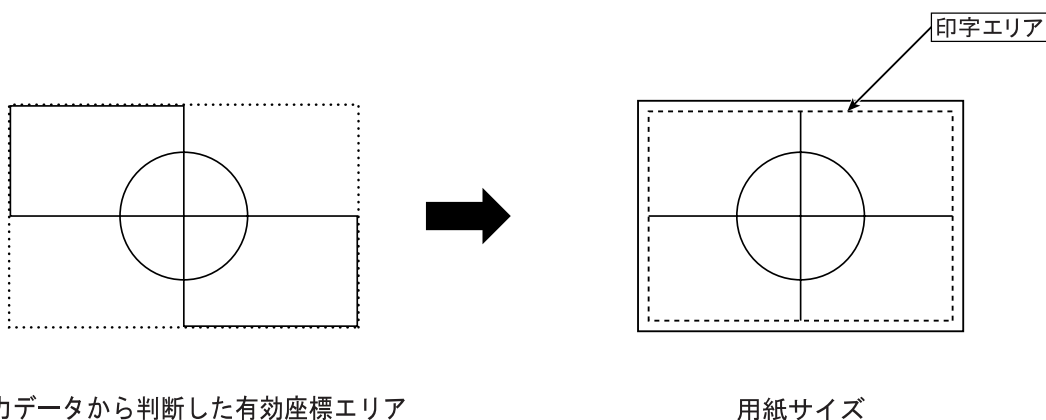
オートレイアウト実行時、プリントデータは内蔵増設ハードディスクに格納されます。

プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されていない場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはオートレイアウトメモリーに格納されます。
オートレイアウトメモリーの初期値は 64KB です。したがって、64KB を超えるサイズのプリントデータを受信した場合、本機は正しいレイアウトで出力を行いません。この場合は、操作パネルを使って、オートレイアウトメモリーの容量を変更してください。ただし、オートレイアウトメモリーの上限は、5120KB です。したがって、5120KB より大きいサイズのプリントデータを受信することはできません。
オートレイアウト機能を使用する場合は、本機に内蔵増設ハードディスクを装着することをお勧めします。

3.3.8　各機能組み合わせ例

以下に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：する

原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：しない

原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：座標エリア、スケール：する

原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：座標エリア、スケール：しない

3.3.9 HP-GL/2 モードの機能制限

HP-GL/2 モードのエミュレーションターゲットである HP DJ750C Plus では、線幅が 0.35㎜ 以下のときに、線の接続形状として斜め継ぎではなく、丸め継ぎになる仕様です。しかし、本機の HP-GL/2 エミュレーションでは、線幅にかかわらず、常にデフォルトは斜め継ぎになります。斜め継ぎを解除するには、コマンドで指定する必要があります。

索　引

記号・英数

ア

カ

ハ

マ

ヤ

マニュアルコメント用紙

本書をより使いやすいものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、誤植、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、マニュアルに関することのみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

マニュアルの名称	DocuPrint C3540/C3140/C3250 HP-GL、HP-GL/2 エミュレーション設定ガイド		管理 No	ME3361J1-2
ご 芳 名		貴 社 名		
所属部門		電話番号	[内線]	
所 在 地				

個人情報の取り扱いについて

マニュアルコメント用紙にご記入いただいたご芳名、所在地、電話番号等は、富士ゼロックス株式会社のマニュアル制作担当部門でマニュアルに対するお客様のご要望を具体的に把握・分析してマニュアルを改善するための活動、およびご協力いただいたお客様へのお礼状の送付のために利用いたします。

ページ	行	内容へのご指摘／ご要望

富士ゼロックス記入欄		
記　　事	受付 No.	受付担当印

1 版

［切り取り線］

[折り込み線]

富士ゼロックス（株）社内メール扱い

[送付先]
HID 開発部
マニュアルグループ 行

担当社員

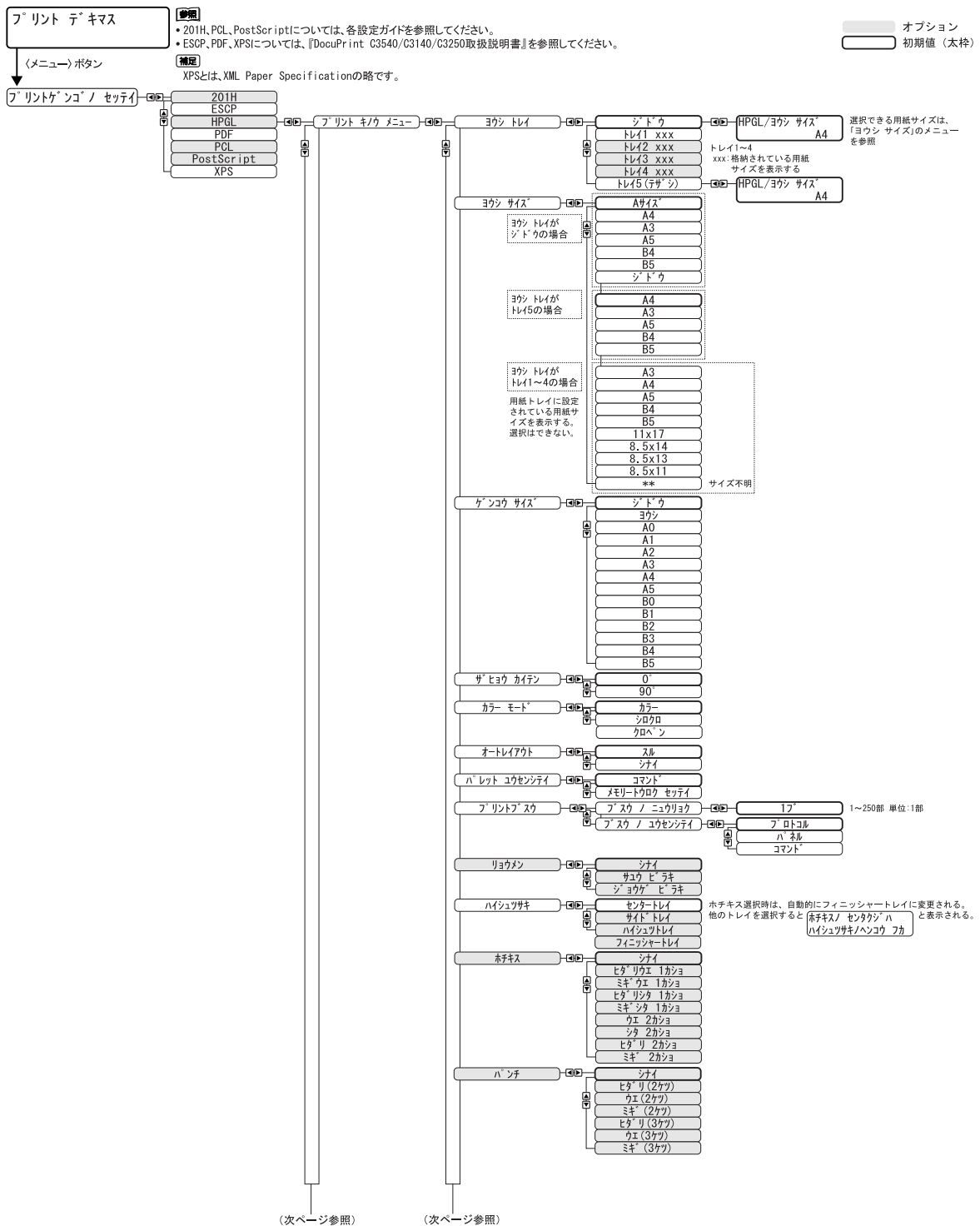
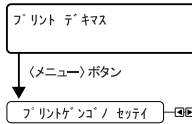
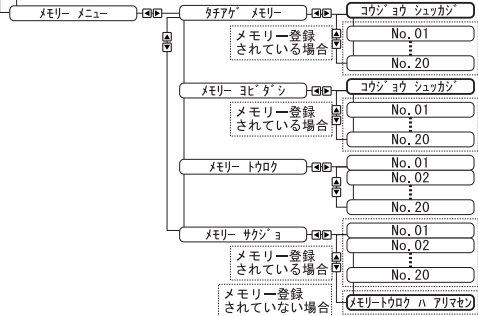
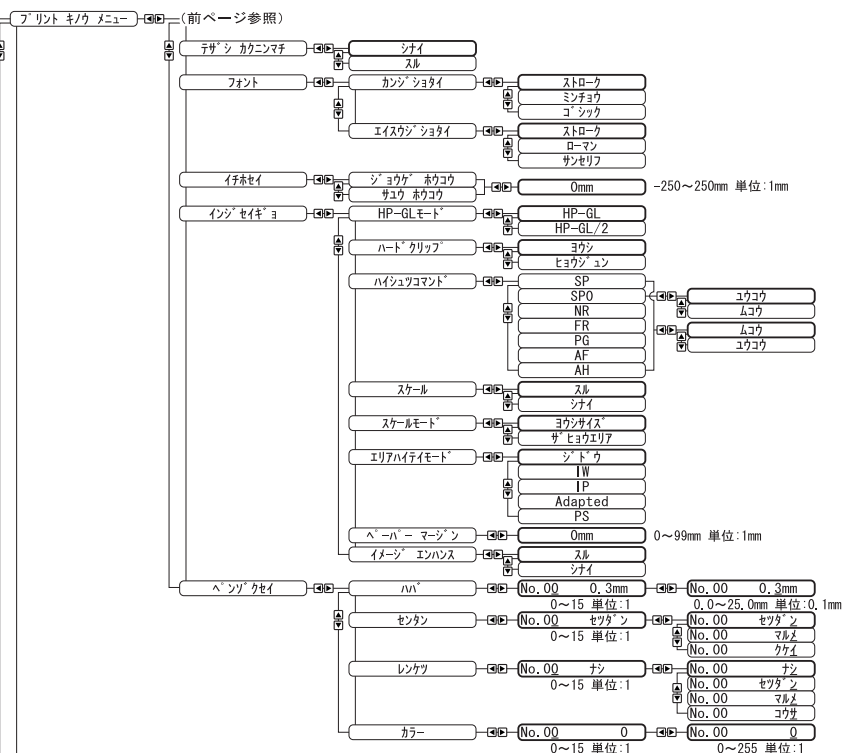
事業部　営業所　課　係

氏名

[折り込み線]

[切り取り線]

- ご記入くださいましたら点線の部分で折り込みホチキスなどでとめたうえ、お買い求めの販売店にお渡しください。
- このままで郵便物として投函なさらないようにご注意ください。

モードメニュー一覧（HP-GL、HP-GL/2）

（次ページ参照）　（次ページ参照）

No.	値
00	0
01	1
02	2
03	3
04	4
05	5
06	6
07	7
08	8
09	12
10	19
11	27
12	35
13	68
14	100
15	110